

脱炭素化

2

農業分野での脱炭素化の取組みで期待されているのが、有機農業への切り替えと土壌での炭素貯留だ。「過疎地域を有機農業と再生可能エネルギーで変えられたら」との希望を胸に千葉県匝瑳市で事業に取り組む、市民エネルギーちば・東光弘代表取締役、Three little birds (TLB) 齊藤超代表社員、佐藤真吾代表社員に農業分野での脱炭素化について聞いた。

(阿久津裕史)

——市民エネルギーちばの事業概要は。
東 四つ事業がありま
す。ソーラーシェアリン
グ(SS)での自社発電
事業、他環境企業のSS
設備を建設するEPC事
業、部品開発製造販売事
業、講演・セミナーなど
の事業です。そのほかに

——SSとは。
東 畑の上で発電し、
下で作物を作る、太陽の
恵みを両方で活用するも
のです。発電には太陽光
パネル1に対して空間2

過疎地域を変える



右から齊藤超氏、東光弘氏、佐藤真吾氏

底に考えています。第一発電所は、2014年9月に約1000㎡に35kWを800万円ほどで完成し、現在は10万㎡で2・6MW総投資額は約5億円になりました。これらの売電売上げから毎年300

万円の間に寄付されています。不耕起栽培も挑戦

——TLBの農業は。
齊藤 TLBでは12町

——具体的な事例は。
東 事業者には契約に
応じて圃場地代、耕作委
託金、村づくり基金への
寄付をお支払いいただき
くことで地域興しに参加
していただきます。最近
では再生可能エネルギー
への転換を進める企業が
SSを実施して、パネル
下で生産される有機農産
物を原材料に、商品開発
に取り組みされる事例もあ
ります。

有機農業と再生エネルギーで

の間隔で細かいパネルを利用しますが、発電のために農業をするのではなく、増加する耕作放棄地を再生し、農家がなりわいを続けて行くことを根

の間に細かいパネルを利用しますが、発電のために農業をするのではなく、増加する耕作放棄地を再生し、農家がなりわいを続けて行くことを根

の間隔で細かいパネルを利用しますが、発電のために農業をするのではなく、増加する耕作放棄地を再生し、農家がなりわいを続けて行くことを根

の間隔で細かいパネルを利用しますが、発電のために農業をするのではなく、増加する耕作放棄地を再生し、農家がなりわいを続けて行くことを根

の間隔で細かいパネルを利用しますが、発電のために農業をするのではなく、増加する耕作放棄地を再生し、農家がなりわいを続けて行くことを根

の間隔で細かいパネルを利用しますが、発電のために農業をするのではなく、増加する耕作放棄地を再生し、農家がなりわいを続けて行くことを根